

臨床検査医学総論演習

《担当者名》 坊垣暁之 幸村 近

【概要】

臨床検査の臨床的意義や重要性を理解するためには、様々な病気に関する知識とその病気を診断するために必要な検査や検査結果の解釈について総合的に理解する必要がある。本演習は臨床病態学、
、
で学んだ様々な病気に関する知識と各種臨床検査に関する専門的な講義・実習で学んだ知識と技術を整理し関連づけることにより、病気という視点から広く臨床検査を理解することを目的としている。本演習は今までに学んだことを振り返りつつ、それに関連する演習問題やR-CPCなどを活用し理解度を確認しながら授業を進めていく。

【学修目標】

- 1) さまざまな疾患の病態を学び、臨床症状と臨床検査を通じて診断に至る過程を臓器系統別に理解する。
- 2) 治療方針決定や治療後の経過と臨床検査の関わりについて理解する。
- 3) 臨床検査の意義や臨床上的意思決定における検査情報の活用法について説明できる。
- 4) 以下の主要な疾患について臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。

- ・循環器疾患
- ・呼吸器疾患
- ・消化管疾患
- ・肝・胆・膵疾患
- ・感染症
- ・血液・造血器疾患
- ・アレルギー性疾患・膠原病・免疫病
- ・腎・尿路・生殖器疾患
- ・代謝・栄養障害
- ・内分泌疾患
- ・精神・神経疾患(認知症を含む)
- ・運動器疾患
- ・感覚器疾患
- ・救急医療における疾患

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	感染症	・細菌感染症、ウイルス感染症、真菌感染症、その他の感染性疾患 教科書：第6章	坊垣暁之
2	血液・造血器疾患	・貧血、白血病、M蛋白血症、悪性リンパ腫、その他の造血器疾患 教科書：第7章	坊垣暁之
3	アレルギー性疾患・膠原病・免疫病	・アレルギー性疾患、自己免疫疾患、膠原病、免疫不全症 教科書：第12章	坊垣暁之
4	代謝・栄養障害1	・先天性代謝異常症、染色体・遺伝子異常症 教科書：13、16章	坊垣暁之
5	代謝・栄養障害2	・先天性代謝異常症、染色体・遺伝子異常症 教科書：13、16章	坊垣暁之
6	内分泌疾患	・下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患、その他の内分泌疾患 教科書：第13章	坊垣暁之
7	感覚器疾患、中毒	・眼疾患、耳鼻疾患、各種中毒性疾患 教科書：第14、15章	坊垣暁之
8	臨床検査医学総論	・基準範囲、カットオフ値、臨床検査性能評価、臨床判断値、ガイドライン 教科書：第19章	幸村 近
9	救急医療・救急疾患	・救急患者の症状、救急時の処置、救急疾患 教科書：第1章	幸村 近

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
10	循環器疾患、血栓止血領域	・心不全、血圧異常、不整脈、先天性心疾患、心臓弁膜症、虚血性心疾患、心筋疾患、その他の心臓血管疾患 ・血栓症、出血性疾患 教科書：第2章、第7章	幸村 近
11	呼吸器疾患	・感染性肺疾患、免疫学的機序が関与する肺疾患、閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、肺循環障害、胸膜疾患、肺がん・悪性腫瘍、その他の呼吸器疾患 教科書：第3章	幸村 近
12	消化管疾患、肝・胆・膵疾患	・消化管疾患（炎症性腸疾患、消化性潰瘍、イレウス、機能性消化管障害、消化管悪性腫瘍） ・肝疾患（肝炎、肝がん、肝硬変、脂肪肝）、胆道疾患、膵疾患 教科書：第4章、第5章	幸村 近
13	腎・尿路・男性生殖器疾患	・腎疾患、尿路疾患、男性生殖器疾患、体液・電解質・酸-塩基平衡異常 教科書：第9章	幸村 近
14	精神・神経疾患(認知症を含む)、運動器疾患	・脳疾患、神経疾患、筋疾患、骨疾患 教科書：第11章	幸村 近
15	R-CPC	・R-CPC：症例の検査データを分析し解釈することで病態を読み解く訓練を行う。	幸村 近

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（筆記試験）100%

【教科書】

奈良信雄・高木康・和田隆志 編著 「最新臨床検査学講座 病態学 / 臨床検査医学総論 第3版」 医歯薬出版株式会社 2021年

【参考書】

河合忠 監修、山田俊幸・本田孝行 編集 「異常値の出るメカニズム（第7版）」 医学書院 2018年

高木康・山田俊幸 編集 「標準臨床検査医学 第4版」 医学書院 2013年

本田 孝行 著 「検査値を読むトレーニング ルーチン検査でここまでわかる」 医学書院 2019年

矢崎義雄 監修 「新臨床内科学 [デスク判] 第10版」 医学書院 2020年

矢崎義雄・小室 一成 総編集 「内科学（第12版）」 朝倉書店 2022年

櫻林郁之介 監修 「今日の臨床検査2021-2022」 南江堂 2021年

藤田保健衛生大学『臨床検査学入門』編集委員会 編集 「医学領域における臨床検査学入門 第4版」 KTC中央出版 2018年

金井正光 監修 「臨床検査法提要 改訂第35版」 金原出版 2020年

【備考】

講義の開講順は、変更する場合がある。変更内容や講義日程は、ガイダンス時または掲示等にて発表する。

適時、講義資料を配布する。

一部クリッカーを使用し、学生の理解度を把握する。

一部Google Formを用いてレポート課題を提出する。

【学修の準備】

予習は指定した教科書と配布資料を十分に読んでおくこと(80分)。

復習はノート、教科書および配布資料を活用し理解を深めること(80分)。

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

(DP4) 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

【実務経験】

幸村 近（医師）、坊垣暁之（医師）

(2026年度・医療技術学部)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、臨床血液学の基礎的かつ臨床的な講義を展開する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している